

大阪学習センター

2024年度公開講座 開催予定一覧

※大阪学習センター客員教員による公開講座です
参加申し込み等詳細については、Webサイト
をご確認ください



職名 / 氏名		本務先/専門分野	開催日時・場所/ 定員	講演タイトル・要旨
放送大学大阪学習センター 客員教授 佐藤 尚弘		大阪大学名誉教授 (理学研究科) 化学 (高分子化学)	2024/8/3 (土) 15:00 - 16:30 (オープンキャンパス) 第1 講義室 定員：40名	化学は人類を救う 私たちが生命を維持するためには、様々な物質が必要です。私たちは、体温を適切な値に保つために衣服を利用し、外敵から身を守るために住居に住んでいます。したがって、生活を営む上で様々な物質を利用しなければなりません。化学は物質の科学であり、私たちの生活と密接に関係しています。講座では、化学がどのように私たちの生活と関係しているかを紹介したいと思います。
放送大学大阪学習センター 客員教授 酒井 規夫		大阪大学名誉教授 (医学系研究科) 医誠会国際総合病院 難病医療推進センター 副センター長 小児科学	2024/8/18 (日) 14:00 - 15:30 第4 講義室 定員：40名	身近な遺伝学—なぜ三毛猫はメスなの？— 遺伝学というと堅苦しかったり、なんだか近寄りにくい感じを持たれている方も多いのではないのでしょうか？みなさんの健康にも大きな関わりのある遺伝学について、身近な現象を例えにとって、わかりやすい遺伝学の入門のお話をしたいと思います。
放送大学大阪学習センター 客員教授 小林 治		元大阪大学教授 (理学研究科) 幾何学	2024/8/25 (日) 15:00 - 16:30 (オープンキャンパス) 第1 講義室 定員：40名	円と球—エウドクソスとアルキメデスの公式から— 学校数学で習うエウドクソス・アルキメデスの公式は古代ギリシャの幾何学の定理です。これらを別々にではなく、併せて眺めると、一気に近代・現代の数学までへの道筋が照らされることを説明します。こうして見えてくるであろう数学の未来の姿を皆さん自らが想像されるとき、その助けになることができればと思います。
放送大学大阪学習センター 客員教授 小林 秀敏		大阪大学名誉教授 (基礎工学研究科) 材料力学 (衝撃工学& 植物バイオメカニクス)	2024/9/21 (土) 14:00 - 15:30 第4 講義室 定員：40名	ユリの花のつぼみが持つ高密封性と短時間開花のひみつ 強固な密封性を有しているにもかかわらず、開花時は数時間で完全開花するユリの花の蕾について、その独特の花弁接合構造やスプリングバック挙動に注目して、光学観察や引張試験、FEM変形解析を実施し、蕾の内部保護機能と短時間展開特性という相反する2つのタスク達成の秘密について、力学的観点から考察したいと思います。
放送大学大阪学習センター 客員教授 佐藤 都也子		四條畷学園大学教授 (実践教育センター長) 看護学	2024/10/20 (日) 14:00 - 15:30 第4 講義室 定員：40名	病(やまい)とともに生きる 人生100年時代、日本は世界的な長寿国となっています。長く生きていくことは、それだけ病気になることも多く、高齢社会はみんなが病気をもって生きていく社会とも言えます。 無病息災から多病息災へ、病気とうまく付き合いながら、人生の最期まで自分らしく生きていくことについて考えてみたいと思います。
放送大学大阪学習センター 客員教授 長谷川 義仁		近畿大学大学院教授 (法学研究科) 民法	2024/11/22 (金) 14:00 - 15:30 第4 講義室 定員：40名	おなかの赤ちゃん和法律—胎児も損害賠償を請求できるの？— 民法3条1項は、人が私法上の権利を享有することができるのは出生以後としています。では、もしおなかの赤ちゃんが交通事故でケガをしたとしたら？その赤ちゃんは、生まれていないのだから、損害賠償を請求できないのでしょうか？その赤ちゃんが損害賠償請求をできるようにするには、どのような論理が必要なのかを考えます。
放送大学大阪学習センター 客員教授 鳩澤 歩		大阪大学大学院教授 (経済学研究科) 経済史・経営史	2025/2/2 (日) 15:00 - 16:30 (オープンキャンパス) 第1 講義室 定員：40名	鉄道のドイツ史—ドイツをつくり、ドイツを壊した— 現代の私たちが知る経済大国・「EUの盟主」ドイツ（ドイツ連邦共和国）という国がどのようにできあがったのかを、おもに社会経済史の視角によって追います。議論の中心となるのは、19世紀半ば以来の鉄道業の発達です。20世紀後半までのドイツの激動の歴史に鉄道がいかにかわってきたかを追います。
放送大学大阪学習センター 客員教授 渡邊 英理		大阪大学大学院教授 (人文学研究科) 近現代日本語文学	2025/2/22 (土) 15:00 - 16:30 (オープンキャンパス) 第1 講義室 定員：40名	石牟礼道子の世界 2018年に惜しくも世を去った石牟礼道子の文学は、日本語文学のなかで「世界文学」として読まれうる広がりと深さをたたえていると評されます。その代表作として知られる、水俣病患者の声をすくいとった『苦海浄土』、幼年時代を描いた『椿の海の記』など、「小さな場所」をめぐるその文学世界を読み解いてみたいと思います。